

奥会津だより



今も暮らしに生きる道具をシリーズで紹介しします。-No.13 そば打ち棒-

そば打ち棒 (モミヨウシボウ)

自然の曲がりを利用した木で、ソバの実の脱穀をしている。

本来は収穫した稲の籾についている芒(ノギ)を落とす作業のための道具だったが、ソバや大豆などの脱穀用具として、今も活躍している。

ナラなどの堅い木で、根元の方の太い部分で叩く。金山町大志では「ソバブチボウ」と呼んで、向かい合ってリズムを取りながら叩いていた。



なつかしい風景

◆ 農の風景

写真・文 竹島善一

昭和40年代後半より現在まで、奥会津各地の暮らしを写真で記録している。(東京在住)



写真：平成5年10月 館岩・精舎

平成になってからの撮影だが、もっと昔の写真に見える。おそらく案山子（かかし）の装束のせいだろう。

麦藁帽子をかぶり、着物の柄も時代を想わせる。袖口を見ると下着も着ているようだ。襟元にはタオルを巻いている。肩にかかる棒も単なる案山子の支えではなく、道具に見えてくる。もう万全だ。

この案山子は他所者ではない。いつもこの身支度でこの畑に働く人、その方に違いない。案山子は田に立つものと思いついていたが、ここではソバ畑を背にしたカブ畑を守っている。

館岩の高地に生きる、案山子の主の人柄が静かに力強く伝わってくる。



奥会津の花の点描

ミヤマママコナ（ゴマノハクサ科）

山地のかわいた道脇に見られる1年草。8月から9月、紅紫色の小さな花をいっぱいにつけて目立ちます。舌をかみそうなむずかしい名前は、深山飯子菜という意味で、突き出た唇状の花弁に白い米粒に似た隆起があることから名づけられました。虫めがねでじっくり観察してみたいかが。

奥会津の秋の風景

道路沿いの向日葵が秋桜へ。セミの声から、夕刻奏でられる虫たちの声へ。静かに秋へと移り変わるこの頃、畑の匂も顔触れが変わっていく。田の緑の横には一面のソバの花の白が映える。日々、目にしているこの景色の一つひとつが、来訪された方からいただく「奥会津はどこをとっても絵になるから」という言葉にながっていく。景色、人、すべてに原風景が残る奥会津。

そんな奥会津をレンズに収め、作品としてフォトコンテストに応募してくれる方々がいる。住んでいる私たちが目にしている景色そのまま、いやそれ以上に愛情を感じる作品の数々。何度も足を運び、季節毎に表情を変える様子を写してくれる。その作品たちを、今後も出来る限り多くの人たちに見ていただけるようにしていきたいと思う。

フォトコンテストも第12回目となるが、今年もまた素敵な作品に出合えることを楽しみにしています。

(み)

写真と文・坪田和人



三岩岳

三岩岳は会津駒ヶ岳の隣に位置している山だ。山麓から中腹部は豊かなブナ林に覆われ、上部はオオシラビソに、山頂付近は高層湿原のお花畑となっていて、会津の山らしい特徴を備えている。登山者に人気の会津駒ヶ岳に比較して、訪れる人が少ないので、よく「不遇の山」と云われる。しかしそのことはこの山の良さを理解している人のみが訪れると云うことで、ある意味では「幸せな山」と云えるのではなからうか。登山口から暫く黒檜沢に沿って行くが、

ブナ林は沢から離れた尾根から姿を現し、標高1500m付近まで続いていく。このブナは白い樹肌の背の高いブナ大木が多い。ブナ大木が次々と姿を現してくるが、登山道脇に生えている小灌木に遮られて、登山道脇のブナしか見えないのが惜しい。しかし残雪期にはこのブナ林の真の姿が見られる。白い樹肌のブナ妖精がズラリと林立していて、第一級とも云える素晴らしいブナ林だ。登山道は標高1300m付近で旧道と合流する。三岩岳の登山の問題は黒檜沢の渡渉だろう。特に雪解け水で増水したときは難儀する。旧道は急坂ながら尾根道なので春先に利用価値が高い。

アクセス
会津高原駅から檜枝枝
または尾瀬御池行きバスで
小豆温泉まで約1時間
コースタイム
小豆温泉登山口(約2時間)
—旧道合流点(約2時間)
—避難小屋(約40分)—山頂

◆著者プロフィール
1942年生まれ。ブナをライフワークテーマとする。日本全国約500ヶ所のブナ林を訪ね歩いてきて、「ブナの山旅」(山と渓谷社)を出版。会社生活を卒業後は、ブナライフに徹するために生活拠点を会津若松市に移し、奥会津や東北各地のブナ林巡りを続けている。

奥会津の名山

02 大博多山

写真と文・森澤堅次



大博多山 5km南の尾白山より望む
(平成14年10月17日 小松山明栄撮影)

大博多山は南会津町伊南と南郷の境界にある標高1315mの道のない山である。登山家達の間で大博多山が注目されるのは「二等三角点の藪山」だからである。明治二十年代、大日本帝国陸軍土地測量部は地形図の作成を急いでいた。富国強兵を進める明治新政府にとって国防の基礎となる精密な地形図は不可欠であった。一等三角点標石は一辺の長さが30〜40kmの三角形を描くために、見通しの良い山の上に人間の背に担がれて敷設された。人間の体重ほどの白御影石の石柱を地元の強力和協力して測量隊が人跡未踏の山頂に上げ、晴れた日を待って遠くの山の方位を決めた。三角測量

は、一等三角点が描く三角形の中で、二等、三等、四等、独立標高点(独標)を決めて精度を上げる。我国の地形図の精度の高さと美しさは、世界中に知られている。 独創的な今西進化論の提唱者、1979年文化勲章受章者、満83歳までに国内1500座の登頂を果たされた今西錦司博士(1902〜1992・6・15)は、昭和57年(1982)6月4日に会津の山男達と縦向沢を遊行して登頂された。御歳80歳の時で、探検家としての最晩年にふさわしい登山であった。 国道289号(401号)から青柳集落を通り、林道に入って藪をこぐ。たくさんの方が登るようになって踏跡があり、3時間ほどで登頂できる。標石の周囲は刈払われているので、他の一等三角点の山々、会津駒ヶ岳、七ヶ岳、貉ヶ森山、博士山を見ることが出来る。

◆著者プロフィール
1940年秋田市生まれ。秋田大学鉱山学部機械工学科卒業。五川機械金属機軸(現三菱伸銅機)若松製作所に就職。山岳部を創立。主将部長を経て2000年退職。日本山岳会、南会津山の会に所属し、尾瀬国立公園自然指導員。著書「山を訪ねて」(噴峠会津藩)共著。会津百名山ガイドブック「神々の宿る森 会津」新版会津の峠」等

奥会津だより 無料送付の ご案内

ご希望の方は事務局まで
発送先(ご住所・お名前)
をご連絡ください。

問い合わせ先:
只見川電源流域振興協議会
事務局

TEL.0241-82-5220
FAX.0241-82-2117

E-mail.webmaster@okuaizu.net

方言クイズ

クイズに答えて奥会津の
地場産品を買おう!

問題: 次の方言の意味は何でしょう?

「稲こぎ」

ヒント: これからの季節に行われます。

正解者の中から抽選で2名様に只見町の天然
醸造「只見味噌」をプレゼントいたします。
●応募方法: 官製ハガキに奥会津だよりの
感想、住所、氏名、電話番号を明記の上、答え
をお書きください。

●あて先: 〒969-7511
福島県大沼郡三島町
大字宮下字中乙田979
奥会津書房 宛
●応募締切: 2008年9月30日消印有効

※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。
※クイズの答えは次号49号で発表いたします。

◎47号「こびる」の答え: おやつ

たくさんのご応募ありがとうございました!



お知り紹介

●会津には年に4~5回行きます。その度にいつも「奥会津だより」を手にしています。大好きな奥会津情報が満載で、いつも楽しみにしています。

(横浜市 S.Nさん)

●「奥会津だより」はただ懐かしく、孫たちにも教えながら読ませていただきました。

(柳津町 Y.Sさん)

●表紙写真を見て、当方での草取り機の使用を思い出しました。小学生の頃、父に教わりながら、押すのが重く力が要る仕事だったと。見るとするとでは大違いだったことを思い出させる写真でした。

(茨城 H.Sさん)

9月10月11月 奥会津イベント情報

只見川電源流域振興協議会事業

8月~11月末日
第12回歳時記の郷・奥会津フォトコンテスト作品募集

◆期 間 平成20年8月~11月末日
◆場 所 奥会津地域内(柳津町、三島町、金山町、昭和村、只見町、南会津町(南郷・伊南・館岩)、檜枝岐村)で撮影された作品。

◆部 門 自然風景・郷土文化部門
奥会津思い出スナップ部門
◆問合せ (株)フジカラープロフォトセンター 群馬事務所 ☎027-327-5882

10月 柳津町
第8回 歴史と文化のやないづウォーク

◆日 時: 10月26日(日)
◆受 付: 午前8時30分~ スタート: 午前10時00分
◆参加料: 500円(高校生以下は無料)
◆場 所: 受付会場: 道の駅「会津柳津」
◆問合せ: 歴史と文化のやないづウォーク実行委員会 (柳津町役場観光課) ☎0241-42-2114

10月 南会津町伊南
川のアートコンテスト2008 (伊南川古町温泉あゆまつりと同時開催)

◆日 時 10月19日(日) 午前9時30分~午後3時
◆場 所 南会津町古町 赤岩荘周辺
◆問合せ 南会津町伊南総合支所振興課 ☎0241-76-7715
館岩総合支所振興課 ☎0241-78-3330
南郷総合支所振興課 ☎0241-72-2900

10月 金山町
奥会津ごっつおまつり

◆日 時 10月25日(土)、26日(日) 午前10時~午後4時
◆場 所 金山町中川 町民体育館周辺
◆問合せ 金山町役場地域振興課 農林観光係 ☎0241-54-5327

イベント情報

9月 柳津町
西山温泉ます釣り大会

◆日 時 9月14日(日) 午前7時00分開始 (受付は午前6時00分~)
◆場 所 西山温泉(滝谷川)
◆問合せ 西山温泉旅館組合旅館中ノ湯 ☎0241-43-2424

南会津町伊南
大博多山秋の山開き

◆日 時 10月18日(土) 午前8時受付
◆場 所 南会津町青柳 大博多山登山口 (久川城資料館駐車場からピストン輸送)
◆問合せ 南会津町観光協会伊南観光センター ☎0241-76-2214

10月 南会津町南郷
南郷トマトまつり

◆日 時 10月26日(日)
◆場 所 南郷トマト選果場前
◆問合せ JA会津みなみ南郷支店 ☎0241-72-2230

只見町
第46回只見駅伝競走大会

◆日 時 10月5日(日)
◆問合せ 只見町教育委員会 ☎0241-82-5320

南会津町伊南
伊南川古町温泉あゆまつり

◆日 時 10月19日(日)午前10時~午後2時
◆場 所 南会津町古町 赤岩荘周辺
◆問合せ 南会津町観光協会伊南観光センター ☎0241-76-2214

南会津町館岩
会津高原たていわ新そば祭り

◆日 時 11月1日(土)
◆場 所 会津高原たかつえスキー場
◆問合せ 南会津町観光協会館岩観光センター ☎0241-78-2546

檜枝岐村
地元の人と行く「燧ヶ岳秋山トレック」
※村内宿泊者限定50名様

◆日 時 10月6日(月) 午前7時 御池登山口(駐車場奥)集合
◆問合せ 尾瀬檜枝岐温泉観光協会 ☎0241-75-2432

南会津町 館岩
第23回ゴーマン杯 ふるさと健康マラソン大会

◆日 時 10月19日(日)
◆場 所 集合場所: 館岩グラウンド
◆問合せ 南会津町観光協会館岩観光センター ☎0241-78-2546

只見町
只見町文化祭

◆日 時 11月1日(土)~2日(日)
◆場 所 只見地区センター
◆問合せ 只見町教育委員会 ☎0241-82-5320

10月 三島町
第7回会津地鶏まつり

◆日 時 10月12日(日) 午前10時~午後3時
◆場 所 美坂高原
◆問合せ 三島町役場産業建設課 ☎0241-48-5533

南会津町南郷
南郷新そばまつり

◆日 時 10月25日(土)
◆場 所 南郷スキー場センターハウス
◆問合せ 南会津町観光協会南郷観光センター ☎0241-72-2112

南会津町館岩
前沢曲屋まつり

◆日 時 10月26日(日)
◆場 所 集合場所: 前沢曲家資料館前
◆問合せ 南会津町観光協会館岩観光センター ☎0241-78-2546

三島町
第4回会津の編み組工芸品

◆日 時 10月18日(土)~19日(日) 午前9時~午後5時
◆場 所 三島町交流センター「山びこ」
◆問合せ 三島町生活工芸館 ☎0241-48-5502

昭和村
秋味まつり

◆日 時 10月26日(日)
◆場 所 からむし織の里
◆問合せ 昭和村観光協会(昭和村商工会内) ☎0241-57-3100

只見町
第17回只見新そばまつり

◆日 時 11月8日(土)
◆場 所 只見地区センター
◆問合せ 只見町産業振興課農林班 ☎0241-82-5230

檜枝岐村
第25回 新そばまつり
※定員500名

◆日 時 11月8日(土) 午後5時~午後7時
◆場 所 尾瀬の郷交流センター
◆問合せ 尾瀬檜枝岐温泉観光協会 ☎0241-75-2432



発行: 只見川電源流域振興協議会(柳津町・三島町・金山町・昭和村・南会津町(南郷、伊南、館岩地域)・檜枝岐村・只見町)
発行日: 9月10日発行(年5回発行) 事務局: 〒968-0421 福島県南会津郡只見町役場 総務企画課企画班内 TEL.0241-82-5220
http://www.okuaizu.net ☎webmaster@okuaizu.net 編集: 奥会津書房 福島県大沼郡三島町宮下 TEL.0241-52-3580
★只見川電源流域振興協議会は、福島県只見川流域の7町村の活性化と振興を図るために活動している団体です。

この冊子は電源立地地域対策交付金の事業により作成されています。